

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：14503

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531245

研究課題名(和文) 重度重複障害を持つ子どもの参加を支える相互的コミュニケーションと支援

研究課題名(英文) Communicative interaction between children with profound multiple disabilities and their support staffs

研究代表者

高野 美由紀 (TAKANO, Miyuki)

兵庫教育大学・学校教育研究科(研究院)・教授

研究者番号：70295666

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)： 重度重複障害児の参加を促す手がかりを明らかにするため、まず、相互的コミュニケーションの方略を分析し、活動を対話相手自身も楽しむこと、マルチセンソリーな手段を用いることが重要であることなどを明らかにした。そして、マルチセンソリー・ストーリーテリングに注目し、支援現場での効果的な支援策について英国の3事例を分析した。

今後の実践に向けて、マルチセンソリー・ストーリーテリング用の教材を英国BagBooksを基に試作し、また、教員や保護者向けのストーリーテリング講習会を開催した。さらに、今後日本語版を作成していくための参考資料とするためにナラティブインターベンションプログラムの翻訳を行った。

研究成果の概要(英文)： In this research, we sought out better way for children with profound multiple disabilities to join their societies. Case studies of good practices in special school classes and organizations of communication support for children and people with disabilities in UK were performed in order to find tips on how to communicate mutually with those children.

Focusing on 'multisensory' storytelling, we made Japanese multisensory storybooks based on BagBooks that is a charity organization publishing multisensory books for children and people with learning disabilities in UK. We also held a one-day seminar and workshop of multisensory storytelling. And main part of narrative intervention program written by Joffe was translated into Japanese and looked over to modify it and to make the Japanese program of narrative intervention.

研究分野：発達医学(小児科学)

キーワード： 重度重複障害児 教師支援 インタラクション マルチセンソリー ストーリーテリング ナラティブ

#### 1. 研究開始当初の背景

近年では、障害のある子どもが持つ障害の多様化がいわれており、発達障害の増加や重度重複化に対して、学校教育での対応が求められている。しかし、児童生徒の重度重複化に対応できる専門性の高い教員は少なく、専門性を高めることができる仕組みが必要である。

また、児童生徒に重度重複障害がある場合には、周囲の人とコミュニケーションを取ることが難しい。そのために、受け身的になりやすく主体性が育ちにくい。相互的なコミュニケーションが成立する環境設定を行い、相互的なコミュニケーションを通して主体性を育み、自立を促すことが求められる。

#### 2. 研究の目的

重度重複障害があり、やり取りが難しい児童生徒との相互的なコミュニケーションはどのように成立しているのかを明らかにし、その成立を促進する支援方法を開発・管理していくシステムの検討、研究成果を親や教師等への支援に発展させる手がかりを得ることを目的として研究を行った。

#### 3. 研究の方法

##### 1) 相互的なコミュニケーションを成立させる方略

既存の実践現場で収集した資料を用い、まず、研究に関連する場面を書きお越し、エピソードとして抽出した。そしてエピソードにある会話、ジェスチャー、児童生徒の動作や表出などを時系列に記述し、支援者の態度や児童生徒の反応、児童生徒への影響について言語化した。

##### 2) 相互的なコミュニケーション成立を促進する支援方法の集積と管理

本研究では「マルチセンソリー・ストーリーテリング」をキーワードに、日本に比較的近い教育制度である英国で、支援を組織的に行っている団体の扱う教材等の作成、使用、管理体制について、施設見学およびインタビューにより資料収集した。それぞれの施設での工夫や課題を明らかにするため、分析し、学会発表等で意見交換を行った。

##### 3) 成果をもとにした教員・親への支援への発展

マルチセンソリー・ストーリーテリングは日本においては、まだ十分に浸透しているとは言いがたい。そのためにも、教員・親の学ぶ機会を提供するために、セミナー&ワークショップを計画した。また、英国で行われている介入プログラムの一つであるナラティブ・インターベンション・プログラム (Narrative Intervention Programme) を、日本の文化に見合うものにしていく土台を作るため、本研究では、翻訳を依頼した。

#### 4. 研究成果

##### 1) 相互的なコミュニケーションの成立・発展に寄与するもの

一見偶然に生じるように見える相互的なコミュニケーションは、児に伝わりやすいマルチセンソリーなコミュニケーション手段を用いること、教師等の対話相手自身が児との活動を楽しむこと、様々な情報から児の実態把握をして、発想したことを児の特性に合わせた活動内容に調整して取り入れること、楽しむ中で新たに教師等支援者同志が活動の中で端的にでも情報交換・共有を行うこと、などにより成立していた。

##### 2) 相互的なコミュニケーション成立を促進する支援方法の集積と管理

3つの事例について分析を行った。

ロンドンにあるチャリティ団体 BagBooks の事例：作成～スタッフ養成まで

BagBooks は、元特殊学校教師により設立されており、障害のある児者 (people with learning disabilities) のためのマルチセンソリー・ストーリーテリングの物語を作成、販売し、それを用いたストーリーテリングをおこなうストーリーテラーの派遣や、ストーリーテラーの養成トレーニングを行っている。教材作成は、専門の制作スタッフとボランティアで行っている。

この事例で特筆すべきことは、物語の作成・販売だけではなく、ストーリーテラーの派遣や養成トレーニングを行っていること、すなわち、障害のある児者への教育や支援において、適切に、効果的に教材を用いるために、教育・支援現場での支援を行っているというところである。特殊学校の多くは BagBooks の物語を購入しており、その物語を使って、派遣されたプロフェッショナルなストーリーテラーが児童生徒に語る活動には、教員スタッフも入っていた。その教員スタッフの何人かは別の日には自分が生徒にストーリーテリングをしているとのことであった。

スコットランド、ダンディーに本部がある PAMIS の事例：研究と実践のコラボレーション

スコットランド、ダンディーに本部がある PAMIS では、重症児者と保護者への支援を行っている。そこでは、大学の研究センターとのコラボレーションが非常に円滑に行われており、明確な理念に基づいた支援を、効果の検証や課題の分析により改善していることが特徴の一つである。

そこで様々な研究が行われているが、一つにマルチセンソリー・ストーリーテリングの研究がある。BagBooks の創設者の指導を受けてかん、歯科受診、性教育等に関する教材を作成している。実際の使用状況を分析し、効果の検証を行っている。作成時に、家族や教員からニーズを聴取し、医学等専門家の助

言を得ている点も特徴で、個別の生活指導に活用され、家庭では親が、学校では教員が語ることができるようになっていく。

ナラティブ・インターベンション・プログラム (Narrative Intervention Programme) について：階層的な連携体制による現場支援 英国のナラティブ・インターベンション・プログラム (Narrative Intervention Programme) (Joffe, 2012) を地域に般化させる事例を分析した。その事例から学ぶべきものは、一つには、プログラムの質の高さである。アセスメント、計画、実践、事後評価ができ、計画をしていく際の手がかりが多く示され、教材も充実している。

もう一つの特筆すべき点は、階層的な連携体制である。言語・コミュニケーション・セラピストには、現場で生徒のアセスメントをし、教員、教員補助に助言をする役割のものと、そのセラピストをスーパーバイズする大学教員であるセラピストがいる。また、教員や教員補助は、介入前に地方教育局が主催するトレーニングに参加し、実践で助言を求めたい折には、トレーナーにスーパーバイズを得ることができるようになっていく。サポート体制が階層的に行われているためスタッフの専門性を高めていきやすい仕組みになっているといえる。

### 3) 成果をもとにした親支援への発展

マルチセンソリー・ストーリーテリング教材、日本版 BagBooks の試作

日本版の教材の作成と試行をおこなった。英国 BagBooks の作成部門のスタッフの助言を得て、「京都で迷子 (lost in Kyoto)」を作成した。今後新たに作成、あるいは増版していくには、設備やスタッフについて検討していく必要があり、その検討事項を把握することができた。

また、BagBooks の原版の中から、日本の特別支援学校や施設で使いやすい物語を選び、それを日本語に翻訳し、日本文化に適合するよう改編した。「遊園地 (fair ground)」を作成した際に、変更した点は、オノマトペ表現を用いること、みんなで一緒に活動するという設定にしたこと、聴き手に問いかける場面を作ったこと、馴染みのあるものに変更したこと (アヒル釣りを金魚すくいに変更するなど)、達成感を持てる場面を作ったことであった。

「障害児者とつながるストーリーテリング基礎講座およびワークショップ」H27 年 1 月 25 日 (講師は、松山おはなし会の光藤由美子) 教員や支援員および教員等を目指す学生、保護者を対象に、ストーリーテリングの講義 & ワorkshop を行った。光藤由美子は、日本のストーリーテラーの中で、障害児者への語りの重要性を主張する研究者であり、知的障害者や重度の障害者と語りについて実践や研究をし「オープン・ストーリーテラーズ OpenStorytelling」という知的障害者のた

めの語りのグループを創設した Nicola Grove と共同研究をしている。講義は、ストーリーテリングの基礎的な知識からマルチセンソリーを用いたストーリーテリングの紹介までワークショップでは、日本の昔話の「三枚のおふだ」を題材にマルチセンソリー・ストーリーテリングをグループワークで試行した。

ナラティブ・インターベンション・プログラム (Narrative Intervention Programme) の翻訳

日本版の作成の参考資料とするために、ガイドブックの主要なところを日本語に翻訳した。このプログラムは、12 - 3 歳前後の生徒 2 - 6 人を 1 グループとする介入プログラムであり、生徒の好きな物語、登場人物、本、詩、歌、映画、自分のことなどについて楽しく情報交換しながら、言語・コミュニケーションの支援という視点 (言語学や医学的な観点) から語り・ナラティブへの介入を行うものである。従って、文化的な背景の違う日本において同様のプログラムを用いる場合には、日本にいる生徒が好きな物語等を日本版に取り入れるなどが求められ、今後その調整が必要である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

1) Takano M. (2013) Activation of enjoyable music therapy classes; the art of rendering communications by teachers. Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities. 10, 172-172.

2) Udo M. (2013) What helps persons with cognitive impairments enjoyable music activities; toward improved quality of lifelong development. Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities. 10, 172-172.

3) 高野美由紀、有働真理子 (2014) 英国での特別な教育的ニーズのある子どもの教育におけるスピーチ・ラングレッジ・セラピストとの連携。兵庫教育大学研究紀要. 45, 53-61.

[学会発表] (計 8 件)

1) Takano M, Udo M (2012) How do teachers lead pupils with profound multiple and intellectual disabilities to participate? IASSIDD World Congress. Halifax, Canada.

2) 高野美由紀、有働真理子 (2013) 特別支援学校での音楽療法にみられるインタラクション 児童生徒との相互的コミュニケーションを成立させる教師等の態度の分析

日本発達心理学会第24回大会、東京。

3) 有働真理子、高野美由紀(2013) 特別支援学校での音楽療法における対話の諸相 オノマトペとジェスチャーとの関わりを中心に .日本発達心理学会第24回大会、東京。

4) 有働真理子、高野美由紀、梅谷浩子(2013) 音楽療法とオノマトペ表現を活用した歯磨き実践に向けて 知的障害児・者のための「はみがきソング」DVD 教材の作成と適用を通して . 日本特殊教育学会第51回大会、東京。

5) 高野美由紀、田能綾佳(2013) 特別支援学校における食行動の調査 自閉症の有無における相違に注目して .第59回日本小児保健協会学術集会、岡山。

6) 高野美由紀、有働真理子(2013) 障害のある子どもへのストーリーテリング マルチセンソリー教材を用いる英国での事例から . 日本特殊教育学会第51回、東京。

7) Takano M, Udo M.(2014) Trial production of Japanese version multi-sensory stories for children with profound multiple disabilities. IASSIDD Europe Congress. Halifax, Canada.

8) 高野美由紀、有働真理子(2014) 英国のスピーチ・ラングリッジ・セラピストと教育との連携 .日本特殊教育学会第52回、高知。

〔図書〕(計 2件)

1) 高野美由紀(2014) 重複障害児へのごとばの授業 オノマトペを使ってみよう . ことばの授業づくりハンドブック . 溪水社 . 141-142.

2) 高野美由紀(2015) よくわかる肢体不自由教育 . ミネルヴァ書房 .  
〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者  
高野美由紀(TAKANO Miyuki)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授  
研究者番号：70295666

(2) 研究分担者  
有働真理子(UDO Mariko)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授  
研究者番号：40183751

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：